

令和6年度 東京都立調布南高等学校 学校経営報告

令和6年度 ¹ の取組目標と方策 及び 重点目標と方策〔 〕は令和5年度数値	自己評価及び課題と改善策〔 〕目標値
1「学習指導」生徒の進路目標を実現する教科指導の推進 ①定期考査や家庭学習時間調査などを分析し、教科会を中心としたカリキュラムマネジメントや教員相互による授業見学によって授業改善を進め、指導方法や授業内容の充実を図る。 ②観点別評価の導入による「指導と評価の一体化」の実現を目指し、一層工夫を図る。 ③各教科課題や復習・予習の励行、小テストの実施など意図的・計画的に実践し、自主的に学習に取り組める習慣を身に付けさせ、家庭学習時間の確保に努める。 ④各教科で言語活動の充実を図り、司書教諭を中心に学校司書とも連携し読書活動を推進する。 ⑤土曜授業や習熟度別授業を展開し、生徒一人一人が高い目標に挑戦できる学力の向上を図る。 ⑥組織的にスマートスクール端末を活用した授業研究や主体的・対話的で深い学びの実践を進め、新学習指導要領実施に沿った取組を推進する。 ⑦ICT活用委員会や情報科を中心として、オンライン学習による指導の充実を図り、実践を積み重ね改善を進める。また、「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」を中心に様々な教科で生徒の情報活用能力を向上させる。 【重点目標】○学校評価質問項目3「学習指導」生徒の肯定的評価85%〔78〕、保護者の肯定的評価85%〔81〕 ○家庭学習時間(1日平均(自習室等含))1・2学年90分以上〔1年42分・2年49分〕3学年120分以上	B ○学校評価「授業とカリキュラム」生徒肯定的評価 79%【85】 保護者肯定的評価91%【85】 ○学習時間2年49【90】3年188【120】 <5月・11月進路調査の平均より算出> 1年72.3【90】※1年生はデジタルツールで学習時間の月毎算出を継続した平均(課題)①③学習習慣の定着は成績上位層の良好例を全体に広げる必要あり。 ②観点別評価は概ね安定してきたが成績処理ミス・修正有り、周知徹底必要。 (改善策)①③自習室の積極活用、デジタルツールを活用した学習時間の振り返りの機会を定着化していく。②生徒からフィードバックする機会を設け、改善に向けた教科会等を工夫していく。
2「進路指導」社会の中で活躍し、挑戦できる精神の醸成を目指した進路指導 ①進路希望の100%実現に向け、分掌、学年教科の連携を一層強化した組織的な指導と、「進路のしおり」や進路通信などを活用した系統的な進路計画に基づいた指導を推進する。 ②組織的に課題研究や探究型学習を展開してキャリア教育の充実を図る。また、1年探究講演、2年 GlobalStudy講演、3年学校設定科目「Global Classmate」等グローバル人材育成に資する。 ③進路希望調査や模擬試験の分析などから進路適性を的確にし、個に応じた指導を推進する。 ④英語4技能検定などに向けた取組を充実させ、グローバル社会の中で挑戦できる資質・能力を身に付けさせる。 ⑤進路指導部が主体となり長期休業期間中の講習・補習を充実させ組織的・計画的に実施する。 ⑥保護者会や保護者向け進路説明会や講話、三者面談などの実施により、保護者との情報の共有化を図り、家庭との連携を深めた指導を推進する。 【重点目標】○進路決定率 90%〔90〕 ○長期休業中の講習・補習講座数60講座〔38〕、受講延べ人数1800人〔1214〕 ○国公立大学・大学校及び難関私立大学合格者20人〔13〕○GMARCH合格者100人〔63〕	B ○進路決定率 94%【90】 ○長期休業中の講習数 46講座【60】 延べ人数2658名【1800】 ○国公立大・難関私立大合格21名【20】 (内訳 国公立大18名・難関私大3名) ○GMARCH合格76名【100】 (成果)長期休業講座参加数及び国公立大合格者数が伸び健闘した。英検スコアの高さが合格に大きく反映している。 (課題)成績上位層の健闘に加え、成績中位層の底上げが課題である。 (改善策)3年夏までの学習時間確保と、2年時までの学習習慣の定着を図り、1・2年英検全員受検等で英語の早期学力形成を目指す。
3「生活指導」社会規範の定着と自主性の育成 ①生活指導指針に基づき指導内容の共通化を図り、学校生活のあらゆる場面で時間を意識した行動の徹底を図り、身だしなみなどは社会に出てから困らないマナーの理解を深めさせるよう、年間を通して計画的・組織的に指導をする。 ②多様性を尊重する視点から、校則の見直しや女子のスラックスの着用などの変化に対応しつつ、調布南高校のあるべき姿を生徒、保護者、教職員が共有できるよう対話を継続していく。 ③人権尊重の観点から、家庭とも連携して、適切に情報通信機器を使用するための情報モラルの育成を図る。 ④朝の校門での挨拶指導をはじめ、日常での挨拶を励行し、お互いに思いやる態度を育てる。 ⑤物品整理や管理方法を示し貴重品やスマートスクール端末の管理も含め自己管理能力を高める。 ⑥いじめ等に関する情報について、学校生活における生徒観察、学年会などを通してささいなことでも共有し、アンケートも活用して早期発見に努める。いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会など、組織的に迅速に対応し解決を図る。 ⑦自殺防止に向けた取組を徹底するために、生命の大切さを伝え、コンディションレポートの活用を定着させることで、連休前後や長期休業日前後などを重点的に、校内組織と担任間で生徒の情報を共有する。また、スクールカウンセラーや外部機関なども積極的に活用する。 【重点目標】○学校評価質問項目6「規範意識」生徒肯定的評価98〔98〕 ○学校評価質問項目9「相談体制」生徒肯定的評価75〔69〕、保護者肯定的評価75〔62〕 ○いじめ重大事態の件数 0件	B ○学校評価「規範意識」生徒肯定的評価97%【98】 ○学校評価「相談体制」生徒肯定的評価 71%【75】 保護者肯定的評価68%【75】 ○いじめ重大事態の件数0【0】 (成果)学校評価「規範意識」は高水準で維持できている。また、いじめ等に関する指導は早期発見・早期対応が徹底でき、重大事態に至っていない。 (課題)学校評価「相談体制」は昨年度より肯定的評価が微増している。しかし、自由意見に担任等の進路関係の面談・相談に否定的意見が散見され質問項目の検討含め、見直しが必要である。 (改善策)面談は学年方針を統一し、学年内の情報共有や進路部等の複数窓口を徹底し学校全体で支援していく。

令和6年度取組目標と方策 及び 重点目標と方策〔 〕は令和5年度数値	自己評価及び課題と改善策【 】目標値
4 「特別活動・部活動」 社会性を育む特別活動の推進 ①生徒の意欲的な取組を支援し、学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動、部活動などを通して主体性、協調性等を育み、学校生活の満足度を高める。 ②指導体制を整え、運動部活動指針や文化部活動指針に基づいた部活動運営と100%の入部を目指して、部活動の加入を奨励し、運動部文化部ともに活発化を図る。 ③部活動のガイドラインに沿った活動で、充実した部活動と家庭学習のバランスを自己管理できるように指導し、退部することなく部活動をやりきる力を育む。 ④部活動保護者会等を通して、保護者への情報提供と連携を図り生徒一人一人が高い目標を持ち集中して取り組めるようにする。 ⑤オリンピック・パラリンピック教育を継続して推進することで「学校2020レガシー」を構築し、ボランティアマインド、障害者理解を高めさせ、国際感覚や人権感覚を養う。 【重点目標】 ○学校評価質問項目7「行事・部活動」生徒肯定的評価85〔92〕、保護者肯定的評価85%〔96〕 ○部活動加入率95%〔106〕○都大会・コンクールでベスト32相当進出5部〔5〕	A ○学校評価「行事・部活動」 生徒肯定的評価 91%【85】 保護者肯定的評価92%【85】 ○部活動生徒加入率99%【95】 ○都大会32相当以上進出6部【5】 (成果)修学旅行での旅行委員、体育委員、文化委員など委員会生徒が各行事に主体的な取り組み、成長している。 (課題)部活動ガイドラインに沿った活動を遵守し、家庭学習時間を確保する。 (改善策)管理職からの方針を明確にして教員相互でも注意喚起を徹底する。
5「広報・募集活動」 意図的計画的な広報活動 ①学校ホームページの内容を充実させ、生徒の活躍をリアルタイムで発信する。 ②学校見学会や学校説明会、トライ＆チャレンジ(部活動体験および授業体験)を計画的に開催し、各教員が様々な形で本校の魅力を直接中学生へ伝える取り組みを行う。 ③各区や各市等が主催による外部の説明会・個別相談会、中学校への出張説明などに積極的に参加することによって、広い範囲での広報活動を展開する。 【重点目標】 ○ホームページの更新回数 250〔246〕 ○学校見学会来校者1000人以上〔1188〕 ○学校説明会来校者1500以上〔1636〕 ○外部での募集に向けた広報活動、説明会・個別相談会への参加件数 5回以上〔3〕	B ○HP更新317回【250】 ○学校見学会来校者1307人【1000】 ○学校説明会来校者1787人【1700】 ○外部説明会等の参加件数17件【5】 (課題)精力的に広報活動したが第一志望調査1.39倍。応募倍率は昨年並みをキープしたが私立校志望傾向が強い。 (改善策)今年の募集活動を継続しつつ、学校の魅力化・特色化の新たな方策を打ち出し、早期に周知していく。
6「体力向上と健康づくり」 環境整備と健康・安全教育 ①「総合的な子供の基礎体力向上方策」を参考に授業や特別活動、部活動等において生涯に渡りスポーツに親しむ態度を育てるとともに、体力テストの結果を活用した基礎体力向上・健康増進に向けた取組を推進する。 ②健康講話や交通安全教室等の実施により、主体的に健康・安全に留意する習慣を身に付け、社会生活の中での実践を促す。 ③避難訓練や地域防災訓練等、外部機関とも連携し、自助・共助の精神を養い、防災に関する実践力を高める。 ④リサイクルの徹底やゴミの分別、持ち帰りなど学校生活における環境を整理・整頓し、校内美化の徹底を進める。 ⑤各種感染症の拡大に備え、感染防止の意識と習慣を維持する。 【重点目標】 ○学校評価質問項目8「防災・安全指導」生徒肯定的評価85%〔85〕 保護者肯定的評価85%〔87〕	B ○学校評価「防災・安全指導」 生徒肯定的評価87%【85】 保護者肯定的評価83%【85】 (成果)登校時のヘルメット着用は100%である。全職員で取り組む朝の校門指導や部長会の働きかけを継続する。 (課題)感染症拡大は学級閉鎖レベルで留まり、学年閉鎖レベルの拡大はなかった。早期対応がポイントである。 (改善策)部活動等の感染状況を職員間の情報共有で早期発見し、学校医等との連携を密に取り早期対応していく。
7「地域連携」 地域に根付いた活動 ①生徒会や部活動などを中心にボランティアマインドを醸成し、地域の小・中学校、特別支援学校等の行事、地域のイベントなどへ参加し、調布市を代表する高校を目指す。 ②公開講座等の実施により、本校の施設や教育力を地域等の都民へ広く還元する。	A 第18回高校生フィルムコンテスト、調布駅伝にて受賞、ダンス部の児童館との継続事業が調布市から表彰される。
8「学校経営・組織体制」 組織としての課題解決に向けた対応 ①主幹教諭を中心に各分掌、学年の課題を調整、整理し、企画調整会議の機能を活性化させ課題解決に取り組む。 ②体罰・不適切な指導の防止、個人情報等の不適切な取扱いの防止、生徒・保護者とのSNS等での連絡に関する確認、通勤届と通勤方法の確認など定期的な服務事故防止研修と適時適切な指導により服務事故の未然防止を徹底する。 ③教科や委員会等組織内の調整等、会議の効率化などを図り、業務縮減に向けた取組を推進する。 また、教職員の育児・介護を支援するとともに、勤務時間に対する意識改革を進め、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す。 ④教員と経営企画室との連携を密にして共通理解を図り、自律経営予算や学校徴収金の適正な執行、施設の管理や整備、学事、募集対策など、効果的・効率的な経営参画を進める。 ⑤関係機関や近隣の小・中学校、特別支援学校との情報の共有化など連携を深め、組織的な特別支援教育を推進する。	B ○(追加)学校評価に「学校生活充実度」を質問項目として新規追加し、生徒肯定評価92%、保護者肯定評価93%と高い評価を得た。 (課題)③勤務時間外在校時間45時間超職員数を毎月調査し周知しているが、改善に程遠く、むしろ増加している。 (改善策)部活動指導員の増員、探究的な学び支援のティーチング アシスタント活用を工夫し、さらに分掌業務分散化を図るが全国的改革なくして改善は困難である。